

# 指導マニュアル 5: 多極化する国際秩序の構築

～「一極支配」の後の「力の空白」をどう管理するか～

## 1. 指導の核心(コンセプト)

これまでの全テーマの総仕上げです。米中二極でも米一極でもない「多極化世界」において、日本がいかに「利益・力・価値」の調整者になれるかを論じさせます。

## 2. 重点指導ポイント

### A. 多極化の複雑性

- 解説の急所: 単なるパワーの分散ではなく、各国が「経済は中国、安保はアメリカ、価値観は独自」というバラバラな戦略をとる「多層的な対立」を捉えさせます。

### B. 「調整者」としての日本の自画像

- 解説の急所: 日本が欧米の価値観を持つつアジアの利益も理解しているという「立ち位置の特殊性」を武器にする論理を教えます。

## 3. 生徒を伸ばす問いかけ

- 「アメリカも中国も選びたくない国々(グローバル・サウス)に、日本は何を提示できる？」
- 「『踏み絵』を迫る外交は、なぜ多極化世界では危険なのかな？」

## 4. 添削の際の NG ワード・NG 論理

- ✗「日本はアメリカについていくしかない」→ 主体的な戦略の放棄(調整者の視点欠如)。
- ✗「国連の力を強めれば平和になる」→ 「力の体系」の現実を無視した楽観論。
- 「多極化に伴う力の真空を、利益の共有による調整の場へ変容させる」という提言を推奨。